

芝山町 農業集落排水事業 経営戦略 【概要版】

1. 策定の目的

- ・昨今の農業集落排水事業は、人口減少に伴う収入減や将来の施設更新への対応が課題となっており、経営環境は厳しさを増しています。また、圏央道の開通や成田空港の拡張など本町を取巻く環境が変化する中、本事業においても経営状況の変遷が予想されます。
- ・町としては将来にわたって安定した事業を継続していく為、中長期的な視野に立った経営の基本計画である「経営戦略」を策定します。
- ・計画期間は、令和3年度（2021）年から10年間とします。

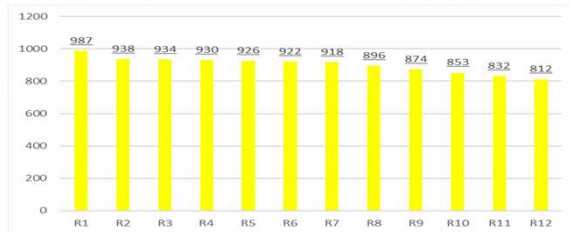
2. 農業集落排水事業の現状

- ・芝山町の農業集落排水事業は、平成9（1997）年度から事業を開始し、平成14年4月に大台地区、平成17年4月に山中地区の供用を開始しました。
- ・本事業は事業整備が完了したため、新規投資は無く、現在維持管理業務のみになりますが、処理施設の機械及び装置が経年劣化のため、今後は修繕費が増加傾向となる見込みです。
- ・本事業の維持管理費は使用料のみでは賄えておらず、一般会計からの繰入金と合わせて運営しております。
- ・経営状況の改善を図るために、経営戦略を策定し、今後の事業計画や適切な使用料の算定に役立てていくことが必要であると考えております。

3. 将来の事業予測

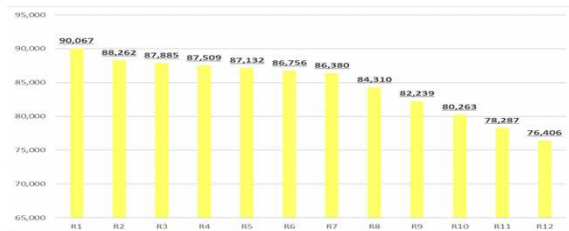
①処理区内人口（人）

- ・処理区内人口は、新規事業の予定がないため、2030（令和12）年は、812人の見込です。



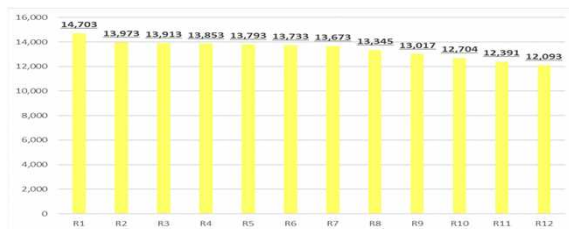
②有収水量（㎡）

- ・有収水量は、処理区内人口減少に伴い、2030（令和12）年は、76,406㎡への見込です。



③使用料予測（円）

- ・使用料収入は、処理区内人口の減少に伴い、2030（令和12）年には、12,093千円の見込です。



4. 経営の基本方針

- ・芝山町汚水適正処理構想の推進
水質や生活環境を守るため、上記適正処理構想を当町の具体的な計画を盛り込んだ「芝山町汚水適正処理構想」に基づき、生活排水対策を計画的に推進するとともに、啓発、広報活動の強化をはかります。
- ・安定した事業運営
安定した事業運営のため収入の確保に努めるとともに、一般会計との負担区分の適正化を図ります。また、修繕計画等により適正かつ効率的な維持・更新を行います。

5. 10年間の当期純利益と修繕費の推移について（千円）

	R1	R2	R3	R4	R5	R6
当期純利益	-14,244	-16,582	-1,218	-1,847	3,321	6,380
	R7	R8	R9	R10	R11	R12
	4,585	2,124	3,868	2,942	2,405	2,681

	R1	R2	R3	R4	R5	R6
修繕費	13,660	9,010	9,010	9,010	13,515	13,550
	R7	R8	R9	R10	R11	R12
	13,450	13,480	13,520	13,500	13,522	13,515

- ・当期純利益について
10年間の見通しでは、令和5年（2023）度以降、起債の償還が進み支出の大幅な減少により、純利益の増加が見込まれます。
- ・修繕費について
10年間の見通しでは、令和2年（2020）度 から令和4年（2022）度までは修繕費が減少するものの、令和5年（2023）度以降は事業開始から約20年が経過しており、施設の更新など大規模修繕が見込まれるため修繕費が増大します。

6. 経営戦略を踏まえた各事業の今後の課題

- ・「3. 将来の事業予想」にあります使用料予測のとおり、将来的には使用料の減少が見込まれることから、収入の確保に努めることや使用料の見直しを視野に運営していく必要があります。
- また、今後も修繕費の増加が見込まれるため、一般会計からの繰入が継続することが予想されます。本事業の独立採算の原則から事業に係る経費は収入で賄うとされているため経営の基本方針に示す安定した事業運営に取り組む必要があります。

7. 経営戦略の事後検証など

- ・PDCAサイクルにより、継続的な進捗管理を行い、常に経営改善や計画の見直しに反映させていきます。
- ・進捗管理は、毎年度末において目標や達成状況について、投資・財政計画と実績の乖離や原因に対する分析を定期的・定量的に検証・評価し、実施手法の改善や計画の見直しを行い、実行するというPDCAサイクルの一連の流れにより行います。
- ・当町においては、今後3～5年の間に3事業の経営戦略のローリングを行い、事業進捗や経営状況の検証に活用していきます。